

校長通信「つぶやき」 佐伯市立鶴谷中学校 校長 渡邊和彦

令和6年6月25日 第12号（通算第67号）

○テストの順位

5月8日に配布したお知らせの中に「さて、今年度のテスト成績表につきまして、従来通り相対的順位を知らせることは、希望する生徒にとって一部励みとなっている反面、希望をしていない生徒にとって自己肯定感の低下につながる可能性もあるため、校内順位を表示せず得点と平均点を表示したものを配布します。校内順位ではなく、得点や平均点をみて自分の成績を振り返り、復習や次回のテストにつなげていただきたいと思います。なお、**校内順位や教科順位が必要な場合は、従来の様式(タックシール)でお渡しすることが可能です。**テスト成績表配布時に、生徒から担任に申し出てください。ご理解とご協力をお願いします。」と記しました。学校評価アンケートでもご質問がありましたので、上記のように変更した理由と、ご理解頂きたい点を説明いたします。

上記の文については（私も反省しているのですが）「順位を記されていない物が基本で、記した物が必要なら申し出により渡される」かのごとく捉えだれるだろうと思います。（申し訳ありません）私たちの考え方としては「順位が必要でない生徒やご家庭にあえて渡すことはしない」という考え方です。実際、すでに3年生については複数回のテストにおいて、**ほぼ全員の生徒が順位記載の成績通知表を希望し、お渡ししています。**期末テストが始まりましたので、今後1年生にも2年生にも成績通知表が配布されます。成績通知表は**2種類準備しています**ので、順位記載が必要であれば配布時に申し出て下さればお渡ししますし、順位記載がなければ同様に順位記載のない成績通知表をお渡しいたします。

次に、「順位を望まない生徒、ご家庭に順位を知らしめる事」の是非や「希望しない生徒、家庭には渡さない」理由ですが、主に5月8日にお知らせした文書の中にある**自己肯定感の低下への懸念**です。自己肯定感が低いのは鶴谷の課題でもあります。認知能力と非認知能力という言葉があります。認知能力はテストや知能検査などで測ることのできる能力、非認知能力は我慢強さや優しさ協調性や思いやり、など検査では測れない人間力みたいなもの、これは点数で比較できる物ではありません。テストの成績順位で「自分は価値のない人間だ・・・」等と思うことがあってはいけません。認知能力が低くても非認知能力

が凄く秀でている生徒もいます。「得点力が高い生徒が順位を望まない」場合もあるでしょう。常に「100%に対しあとどのくらい足りていないのか」を意識しているのであれば、順位などは必要ないから。また逆に、「芳しい成績がとれないが順位の記載を求める」場合もあります。相対的な成績を励みにするためです。「成績の振るわない生徒に順位を知らせ、プレッシャーを与えることで頑張る意欲につなげる」という考え方もあるかもしれません。それについては「平均点と自己の得点の比較」で充分だと考えています。いずれにせよ相対的な成績順位は「希望していない生徒、ご家庭に無理矢理お渡しするものではない」と考えます。どちらを選択するかご家庭でもよく話し合ってくださいと思います。